

令和 3 年 4 月 23 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02472

研究課題名（和文）テレビ文化黎明期におけるテレビドラマの芸術性と文学

研究課題名（英文）The artistry and <literature> of TV dramas in the early days of TV culture

研究代表者

瀬崎 圭二（Sezaki, Keiji）

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：70413284

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題の達成によって、1950～60年代のテレビは、文学者をはじめとする知識人層が期待を寄せていたメディアであったことが明らかになった。当時のテレビは、芸術的な表現を大衆に直接伝達することが可能なメディアとしての側面も持っていたのである。その期待は、当時活発だった芸術祭に参加したテレビドラマ作品に端的に表れている。そこには、当時の表現者たちによる実験的な試みや、大衆との折衝のあり様が明確に刻まれている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1950～60年代の芸術祭に参加したテレビドラマ作品や、当時のテレビ業界の状況を調査することで、私たちの日常ともなっているテレビ映像、ひいては映像表現そのものの日常生活への浸透が、現在の姿とは異なった形で生成する可能性を持っていたことが明らかになった。当時の試みを考察することは、現在のテレビや映像表現のあり様を再考することに繋がるであろうし、今後の表現に対する問題提起にもなるように考えられる。

研究成果の概要（英文）：The achievement of this research project revealed that television in the 1950s and 1960s was a medium that literary and other intellectuals had high expectations for. Television at that time also had an aspect as a medium that could directly convey artistic expressions to the masses. That expectation is clearly reflected in the TV drama works that participated in the art festival that was active at that time. There, the experimental attempts by the artists of the time and the way of negotiations with the masses are clearly engraved.

研究分野：人文学

キーワード：テレビドラマ 戦後文学 芸術祭 大衆 1950年代 1960年代 昭和30年代 記録芸術の会

1. 研究開始当初の背景

2011年にテレビの地上アナログ放送が終了し、インターネットの普及などによってテレビというメディアが相対化され、歴史化される状況となったにもかかわらず、テレビ文化と文学との関係性を問う研究は、『テレビドラマ原作事典』(日外アソシエーツ 2010年)等の事典の存在を除いて、体系的な形では存在しなかった。そのような状況の中で、1980年代以降の日本近現代文学研究において取り入れられ始めたメディア論の視座を参考にしつつ、科学研究費助成事業の若手研究(B)として研究課題「1960年代のテレビ文化黎明期におけるテレビドラマ制作と文学」(2013~2016年度)を申請し、採択後、本格的に研究に着手した。その延長上に本研究課題「テレビ文化黎明期におけるテレビドラマの芸術性と文学」(基盤研究(C)2017~2020年度)があり、「1960年代のテレビ文化黎明期におけるテレビドラマ制作と文学」で明らかになった問題を、より具体化、深化する目的のもと、本研究課題はスタートした。したがって、本研究課題の開始当初から、行うべき作業や、その方法、目的も明確であった。

2. 研究の目的

本研究課題は、1950~60年代のテレビドラマを分析対象とするものであったが、映像が現存する当時のテレビドラマのほとんどが芸術祭受賞作品であったため、それらを中心に考察を行った。テレビドラマと、その脚本を担当した文学者との関係の総体を調査し、テレビを通じた大衆への芸術表現の伝達のあり様を明らかにすることを目的とした。また、映像が現存しない場合でも、活字資料を用いて、テレビやテレビドラマ制作にかかわった文芸評論家の佐々木基一、詩人の谷川俊太郎、歌人の寺山修司らの動向も調査した。加えて、NHKの和田勉ら、テレビドラマの演出に携わったテレビ業界の関係者と文学との関係を考察することで、本研究課題の目的をさらに拡大した。そして、これらの個々の研究成果を単著としてまとめることも目的の一つであった。それは拙著『テレビドラマと戦後文学 芸術と大衆性のあいだ』(森話社 2020年12月 全475頁)として実現することになった。

こうした研究目的を達成したことによって、これまで個別の作家に収斂していた研究が、テレビドラマと文学との関係をめぐる全体的な動きの中に再配置されることになった。同時に、テレビドラマの脚本家としてはこれまで扱われることのなかった作家とテレビとの関係も明らかになり、それぞれの作家の個性を越えたところでこの現象を捉える視点が確保されることにもなった。本研究課題は、日本近現代文学研究においてこれまでに存在しなかった体系的な研究を目指していたし、メディア史、風俗史、歴史社会学、映像学といった多くの研究領域においても意義を認められる研究を目指していた。さらに、それは、テレビというメディアに支えられたわれわれの日常を歴史的に問い直す目的も持っていたし、大学や学界を越えたところで本研究課題の研究成果が共有されることも企図していた。テレビ文化黎明期における芸術的テレビドラマの可能性を問うことは、現在のわれわれの目の前に現前しているテレビとは全く異なる姿を追跡し、現在のテレビ文化を批判的に捉え直すことでもあった。

3. 研究の方法

本研究課題は、日本文学研究としては特異な性質を持つものであり、共同研究には馴染まない課題であるため、全期間にわたって、申請者が単独で研究を行う体制を採った。

映像が現存するテレビドラマ作品を主要な分析対象にし、その脚本を担当したそれぞれの作家とテレビとのかかわりや、そのテレビドラマを制作した頃の状況、評論家や視聴者の反応などを調査し、そのテレビドラマを考察、評価した。調査したのは、当時のテレビ映像、雑誌、新聞などであった。その上で、当時のテレビ業界を把握し、テレビドラマの物語類型や表象にも目を配った。さらに、当時テレビドラマ制作にかかわったテレビ関係者や作家にインタビューすることで実証性を高めた。

こうした研究成果を整理し、1950~60年代の文学者たちとテレビドラマとの関係が概観できるよう個々の研究成果の接続を意識した。

4. 研究成果

本研究課題の遂行期間に発表した論文は、「一九六〇年代初頭における寺山修司とテレビ—政治・土俗・大衆—」(『人文学』第200号 2017年11月 199~240頁)、「三好十郎作「獣の行方」を読む/見る」(『人文学』第202号 2018年11月 131~150頁)、「佐々木基一の『テレビ芸術』とテレビドラマ アクチュアリティの追求」(鳥羽耕史・山本直樹編『転形期のメディアロジー—一九五〇年代日本の芸術とメディアの再編成』森話社 2019年9月 207~230頁 全343頁)である。2018年7月には、NHK 番組アーカイブス学術利用トライアル研究発表会 2018

の発表者に選出され、研究発表「和田勉の演出技法 芸術的テレビドラマの探求」をNHK放送博物館メディア・ラボで行った。

また、当時テレビドラマ制作にかかわった詩人谷川俊太郎氏へのインタビュー記録である「谷川俊太郎氏に聞く「寺山修司とテレビ」」(『同志社国文学』第87号 2017年12月 121~132頁)もある。このことがきっかけとなり、谷川氏へのインタビューと、谷川氏のテレビドラマ脚本を収録した『谷川俊太郎 私のテレビドラマの世界 『あなたは誰でしょう』』(ゆまに書房 2020年3月全411頁)も編集した。さらに、(2013~2016年度の研究課題「1960年代のテレビ文化黎明期におけるテレビドラマ制作と文学」(若手研究(B))を遂行していた際に発表した論文と、書き下ろしの論考を集め、本研究課題の集大成である『テレビドラマと戦後文学 芸術と大衆性のあいだ』(前掲)を刊行した。

『谷川俊太郎 私のテレビドラマの世界 『あなたは誰でしょう』』では、これまであまり知られていなかった谷川氏のテレビ表現を可視化することができたし、単著『テレビドラマと戦後文学 芸術と大衆性のあいだ』では、テレビ文化黎明期における文学者と文学の役割を明らかにすることに成功した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 瀬崎圭二	4. 巻 202
2. 論文標題 「三好十郎作「獣の行方」を読む/見る」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『人文学』	6. 最初と最後の頁 131-150
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 瀬崎圭二	4. 巻 200
2. 論文標題 「一九六〇年代初頭における寺山修司とテレビ 政治・土俗・大衆」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『人文学』	6. 最初と最後の頁 199-240
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 瀬崎圭二	4. 巻 87
2. 論文標題 インタビュー「谷川俊太郎氏に聞く「寺山修司とテレビ」」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『同志社国文学』	6. 最初と最後の頁 121-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計3件

1. 著者名 鳥羽耕史、山本直樹、阪本博志、角田拓也、山崎順子、友田義行、松山秀明、瀬崎圭二、ジャスティン・ジェスティ、ナミコ・クニモト、鈴木勝雄、ケン・ヨシダ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 343ページ
3. 書名 『転形期のメディアロジー 一九五〇年代日本の芸術とメディアの再編成』	

1. 著者名 谷川俊太郎、瀬崎圭二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ゆまに書房	5. 総ページ数 411ページ
3. 書名 『谷川俊太郎 私のテレビドラマの世界 『あなたは誰でしょう』』	

1. 著者名 瀬崎圭二	4. 発行年 2020年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 475ページ
3. 書名 『テレビドラマと戦後文学 芸術と大衆性のあいだ』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------